

# 薬草園の花だより

第17号

2019年(令和元年)5月18日発行

## ■第17号に寄せて

いつ桜が咲くのかと連日気になった日々があり、待ちに待った春の到来でしたが、桜が咲いたと思ったら、あれよあれよという間に、早や夏日となる日もあり、ところによってはもう真夏日となってしまい、沖縄ではついに5月16日に梅雨入りとか。季節の目まぐるしい変化に翻弄されている私たちです。3月に第16号を発行してからまだ少ししかたっていないいつもでしたが、薬用植物園の植物には大きな変化が訪れています。やっと芽を出したと思った植物もどんどん生長して開花しています。今、まさに薬用植物園は様々な植物の花盛りです。

30年余続いた平成の世が過ぎ、今月からは令和の世となりました。令和という元号の起源は『万葉集』であるとのことです。これを機に、万葉集に詠まれた植物を見てまわるのもなかなか楽しいことだと思います。万葉集には150余、あるいはそれ以上はるかに多くの植物が読み込まれているといわれています。というのは、植物が詠み込まれているらしいものの何の植物か不明であるものも多いとか。解明されている中で、歌数の多いものの例としては、ハギ(142首)や、ウメ(122首)、ヌバタマ(81首)、マツ(79首)、ススキ(48首)、サクラ(47首)などがありますが、ムラサキやアカネ、トリカブト、ベニバナなどの薬用植物も数多く詠まれています。

今、単に花といえば桜でしょうが、万葉における花とは萩であったとか。今私たちが、万葉の人々が見たものと全く同じ花も見ていることに口論を感じます。



シラン

古代の人々は、これらの植物をどういう思いで見ていたのでしょうか。時代は少し降って平安時代の中頃になりますが、清少納言の『枕草子』にナデシコのことが出てきます。その文章は「草の花は なでしこ、唐のはさらなり、～」(枕草子七〇段)とあります。唐の撫子とは、唐撫子、すなわちセキチク(石竹)のことです。清少納言がセキチクを愛でている姿が目に浮かび、なんとも微笑ましい気持ちになります。一方、時代も場所も変わりますが、エジプトのツタンカーメンの棺が見つかったとき、その棺の上にヤグルマギク(矢車菊)と思われる小さな花束が載っており、さわるとはらりと崩れたとか。おそらく若い王妃が亡くなった少年王に手向けた花束であったのだろうと思うと心が動きます。古今東西、人々はずっと花を愛し続けてきたのでしょうか。

さて、話はさらにがらりと変わりますが、私には植物園の案内をするときの楽しみがいくつかあります。あらかじめ「名札の付いていない植物の名前は聞かないでくださいね」などと案内者として言つ

てはいけない破茶減茶なことをお願いしたりするのですが、ある植物の前では「この植物の名前は是非聞いてください」と言います。察しの良い方はさっそく「これは何ですか?」と言うので、「シラン(知らん)」と答えるわけです。皆さん大爆笑。一気に距離が縮まります。今、薬用植物園ではピンク色と白色のシランが盛んに咲いていますが、その根茎を白及といい、外用薬として使われています。大変に丈夫でよく繁殖し、東北地方でも戸外で十分に越冬します。それでも歴としたラン科の植物です。(日本薬科大学薬用植物園長/船山信次)

## ■今咲いています・見頃です

### 《ウラルカンゾウ》

薬用植物園温室中央(草楽館)あたりの前方の花壇でウラルカンゾウがあちこちに芽を出しています。この植物は植えたところに温順しく育ってくれず、ストロンを伸ばして好き勝手なところから芽を出しますが、今年、そのうちの1本におそらく日本薬科大学薬用植物園としては初めて花をつけました。ウラルカンゾウは日本国内ではめったに花をつけないそうで、昨年、(株)ツムラの薬用植物園にて初めて花を着けたというものを見て、興奮してたくさんの写真を撮ったことを思い出します。ついに我らが薬用植物園でも開花したというわけです(栽培技術が向上したため?)。こんな機会、なかなかないと思います。花を着けた株のところに目印の札を立てています。是非御覧になってください。



ウラルカンゾウ

カンゾウ(甘草)の根には甘味成分のグリチルリチンが含まれており、様々な漢方薬に矯味などの目的で配合されます。カンゾウは現在のところ中国からの野生品の輸入にたよっていますが、資源の枯渇も懸念されています。今、わが国各地ではその栽培方法が研究されたりしています(本学薬用植物園でも簡栽培を試しています)が、経済的になりたつのかなと、難しい問題が多々あります。

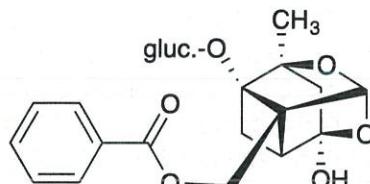
### 《シャクヤク》

美しい婦人の形容として「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」などという表現があります。ボタン科のシャクヤク (*Paeonia albiflora*) はアジア大陸東北部原産といわれ、古い時代に大陸から我が国に導入されました。さかんに品種改良が行われ、現在にいたっています。わが国にはヤマシャクヤク (*P. japonica*) が自生しており、こちらは、直径5cm位の一重の白やピンク～赤色の花を着けます。その清楚な風情が好ましく、お茶花として賞用されています。

シャクヤクは芍薬と書かれるように、その根を薬用とします。鎮静・鎮痛・抗炎症・平滑筋弛緩作用などを有し、芍薬甘草湯や当帰芍薬散などの漢方処方に多用される重要な生薬です。芍薬甘草湯は最近、とくに「こむらがえり」によく奏功するので知られるようになりました。主成分はペオニフローリン (paeoniflorin)。今、薬用植物園では白色とピンク色の花が開花中です。



シャクヤク



ペオニフローリン

## ■最近の他の植物写真から

薬用植物園内にて最近撮影した植物写真から、いくつか選び出してみました。いずれも薬草・毒草です。

キンギンカが良い香りを放っています。アマリリスはまことに妖艶な美しい花をつけますがヒガンバナ科の植物であり、全草に有毒アルカロイドが含まれています。なお、写真に示したアマリリスはガーデンアマリリスと呼ばれる比較的小型の花をつけるものです。



キンギンカ



アマリリス



カモミール



キンセンカ

## ■薬用植物園からのお知らせ

### 《是非御覧ください》

薬用植物園は今花盛りです。是非、この絶好の期間に薬用植物園に足を運んでみてください。花ばかりではなく、様々な植物の生育状況の観察も楽しいものです。

たとえば、巨大な双葉を出す有毒植物のトウゴマの芽生えを見ることができます。写真でカメラのキャップと双葉の大きさを比較してみてください。その巨大さがわかります。今年の藤棚のフジの花を御覧になりましたが。すばらしかったですよ。今年の夏は、ツル性の植物として、センナリヒヨウタンも栽培し、たくさんの瓢箪が楽しげにぶら下がる様子が見られるようにしたいと思っています。乞ご期待。



トウゴマの芽生え